



あづま
県営吾妻団地「ふれ愛・サロン吾妻」(厚木市)

サロンで孤老を防止 運営のカギは文章化

■地域全体の居場所として

会長の葛巻 公司さんは県営吾妻団地に移り住んで8年になります。自治会活動に参加する中で、役員の任期がなくなると関わり続けられる組織で「高齢化の課題と向き合いたい」、そんな想いで2019年6月、団地の空き部屋をサロンに改装し、「ふれ愛・サロン吾妻」を立ち上げました。団地の内外問わず、誰でも気軽に集える憩いの場所になっています。

月に2回、第一木曜日と第四日曜日に開放し、茶話会やゲーム、手芸、軽い運動などを実施して、お年寄りの引きこもり防止、寝たきりや認知症の予防につなげています。

■生活のよりどころ

サロンを利用する方は、まず登録して会員証を作ります。会員証には氏名のほか緊急連絡先、血液型、持病の有無、それにサロンの会長・副会長の連絡先まで記載されており、これを持っ

ていればサロンの外で何かあったとしても安心です。利用者のニーズを把握するため、サロンにはアンケートボックスを設置。集まった声を運営に活かしています。

利用登録者は2020年2月現在で87名。9ヶ国・10名以上の外国籍の方も登録しており、行政関係の手続きなど、日本の暮らしてわからないことを外国語のわかるスタッフに相談できる場となっています。




■ポイントは文章化

サロンは団地の各部屋に配布される自治会報での募集で集まった18人のボランティアで運営しており、月1回の定例会で問題点の解決を図っています。工夫したポイントは文章化して情報を共有すること。当番の人はその日の活動が終わった後、日報を提出することになっています。そうすることで課題やノウハウがスタッフの間で蓄積、共有され、開設から1年足らずで、理事長がいなくてもサロン運営が回る仕組みが整っています。

一言アドバイス

仕組みづくりと情熱が大切です。



県営吾妻団地
「ふれ愛・サロン吾妻」
会長 葛巻 公司さん

成功のコツ

- ・理念を文章化し、メンバー間で共有する
- ・アンケートボックスを設置し、常にニーズを把握する
- ・団地の外にもノウハウを惜しまず共有

また、何のためにどのような活動をするのかという理念や年間の活動計画についても葛巻さんが文章化し、メンバーが共有したことで、各スタッフが自発的に動ける体制ができたそうです。

■広がる活動

サロンの開放のほかにも、支援が必要な生活困窮者に食料を配布する仕組みである「フードバンク」や、高齢で外出するのが難しい方のために、サロン内で理髪サービスを提供する取組をNPO法人と連携し、計画しています。他の団地など同じ悩みを持っている方達にもこうし

た取組みを広めたいと考え、ほかの団地で講演したり、PR動画を作成したりしています。

■世界に広げていきたい

短期間でここまでものを作りあげることができることは、葛巻さん自身もびっくりしているとのこと。「何か特別なスキルが必要というわけではなく、お年寄りを守ってあげたいという気持ちが大切」と話します。ゆくゆくはサロンの活動をNPO法人化したいそうです。日本にとどまらずこのような活動を世界にまで広げたい、それが葛巻さんの願いです。